

だいごしょう 第五章

たす
助けて！

つぎ あさ しょうにん てがみ わた みやこ つ あと おんせん い てがみ
次の朝、商人は手紙をゆきに渡して「都に着いた後で、温泉に行ってこの手紙
をそこの女将に渡してください。その人は私の姉なのです」と言いました。

わ 分かりました。 かなら てがみ ねえ とど い
「分かりました。必ずその手紙をお姉さんにお届けします」とゆきは言いま
した。

それからゆきは都へ向かい、商人は別の方へ行きました。

ま 間もなくゆきは浪人らに出会いました。

「こんにちは、お侍さま。私はゆきと申します」とゆきは浪人の頭に言いま
した。

「ふふふ。なんでそんなに美しい娘がこんな道を旅しているのかな」と頭は
言いました。

「幸せを探すために都に行くところです」とゆきは言いました。

「今日がついてるぞ」と頭は言ってゆきを掴みました。

「そうだな」と他の浪人が言いました。

「いや！侍じゃない！山賊だわ！手を離して！助けて助けて助けて！」とゆき
は叫びました。

あっという間に一匹、二匹、ついには百匹もの狐が浪人の間に現れて、浪人
を咬んで躓かせました。

「畜生！妖怪が！逃げよう！」と浪人は言いました。

「このお嬢さんは俺が守っている。貴様のような奴は彼女に指一本触れてはならんぞ」と狐は浪人の頭に言いました。

それから浪人は皆狐に追われて逃げていきました。

「狐さま、助けてくださってどうもありがとうございます」とゆきは言いました。「真珠をもう一粒差し上げましょうか」

「そんなに貰うことはできませんよ」と狐は答え、「あともう二回まで私を呼んでも構いません。さあ、気を取り直して、旅を続けなさい」と励ましました。

「どうも、ありがとうございます。それでは失礼します」と言って、都へと歩き始めました。

[Yuki no Monogatari](#) by Richard VanHouten
www.theJapanesePage.com